

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修や職場内研修、職員会議、ユニット会議、リーダー会議にて実際のケアにどのように生かして一家、話し合いながら取り組んでいる。	年度初めの職員研修の中で理念の実践について確認し合い支援の中に活かしている。合わせ新人研修時には細かく徹底を図っている。仮に職員の中で理念にそぐわない言動等があった場合にはその都度言葉を掛け指導している。家族に対しては利用契約時に理念に沿った取り組みについて説明し職員の対応等についてのご意見も頂き、運営に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアさんや保育園児との交流、地域の催し物に参加したり、関連施設のデイサービスで交流する機会を設けている。	区費を納め森区の一員として活動している。区長から行事案内を頂き、お祭り、どんど焼き等に参加し、2月には職員が地域の文化祭に出向き「漫才」を披露して喜ばれ、次年度の依頼もされている。また、介護予防教室でも職員が「認知症の寸劇」を披露し、関心を持たれ喜ばれている。また、地域内2ヶ所の保育園との交流も引き続き行われ、歌やリハビリ体操等でのふれあいの時間を持っている。更に、三味線、踊り、ギター、カラオケ等の地域ボランティアの来訪が毎月3回あり、利用者も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、ボランティアさん来所時にふれあう機会を設け、利用者様への支援の方法を見てもらう。また関連施設で地域の方に向けた介護予防教室で認知症についての寸劇を披露した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見とは、活動や新たな取り組みに生かすようにしています。	家族代表、区長、前区長、元区長、市高齢福祉課職員、地域包括支援センター職員、民生児童委員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催している。区長経験者の出席を頂き、地域の情報などを話して頂く中で利用者と地域の人々との関係の継続も図っている。利用状況報告、活動報告、事故報告、意見交換等を行い運営の向上に繋げている。尚、議事録については玄関に開示し、家族にも見て頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じ、現状を知っていただき、アドバイス、意見などをいただいて連携を図っている。	地域包括支援センターには様々な事柄について相談を行い連携も取っている。また、年明けより介護相談員が来訪予定となっている。介護認定の更新調査はホームで行い、立ち会われる家族もいる。市主催の研修会には積極的に参加しホーム内で報告会を開き知識の向上に繋げている。合わせて千曲市グループホーム連絡協議会にも参加し、他施設との交流を深め支援の中に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は周りが田畑や山の為、離設時の危険を防ぐ為に施錠している。気分転換の為、散歩などで外を歩いていただく時は、職員が同行している。	拘束をしない支援をホームの方針とし、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は安全確保のため施錠している。離脱傾向の強い利用者もいるが日中は職員がつき添い、外を散歩したりレクリエーションで気分転換を図っている。利用者個々の行動パターンを把握し、きめ細かな所在確認を行い、事故のないよう心掛けています。2ヶ月に1回、虐待防止・身体拘束委員会による研修会を開き、意識を高め支援に取り組んでいる。	

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の施設や職員研修を通じ身体だけでなく、言葉の虐待についても、注意するよう、職員同士意識しながら予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修にて、制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前説明辞任、疑問点など伺いながら説明している。不明な点は随時聞いていただくように案内している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に匿名で記入いただける意見箱を用意してあります。面会時にお過ごしの様子をお伝えし、要望を受けて対応方法についての話し合いをしています。	家族の来訪は週3～4回を始め、月1回位という状況で、来訪の際には利用者の状況を細かくお話している。また、受診時の付き添いや介護用品等の持参をお願いし来訪の促進もしている。年1回、敬老会に合わせ家族会を開催している。多くの家族に来訪いただき、食事会やボランティアの出し物、職員の余興等で楽しい1日を過ごしている。更に、利用者の誕生日や母の日、父の日にはプレゼントを持ち来訪される家族が多くいるという。ホーム便り「森の里便り」も3ヶ月に1回発行され、ホームの活動状況に合わせて利用者個々の近況報告も担当職員よりお知らせし喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見や提案を、聞いたり取り入れたりし、改善するなどしている。	月1回、月末の夕方4時より全職員出席で職員会議とユニット会議を開催し、連絡事項、各種研修会、カンファレンス等を行いサービスの向上に役立てている。職員のユニット間の交流も積極的に行い、全利用者の状況把握に努めている。人事考課制度があり、考課表で自己評価を行い、管理者との個人面談で自己評価を基に話し合い、職員のスキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が、年一回職員の意見、要望や仕事への取り組みを聞き取り、人事考課へ反映している。個人の事情に応じ希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修はもちろん外部講師を招き、研修を行っている。外部研修の情報を収集し、今後参加を勧めしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加して、ネットワークづくりをしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時に生活歴等の情報、好まれていた習慣などを伺い、入所後はどのような生活を望んでいるかをお聞きし安心して生活できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅での様子、援助してきたこと、困っていることなどを聞き取り、ご家族に経過報告をし、家族の思いを支援に取り入れています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況やケアマネージャーからの情報から必要なサービスを選択できるよう相談させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でご本人が出来ること、出来ない事を見極め、その方が出来ることを教えて頂くことで、自信を持って生活できるよう、支え合える関係を気づけるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が安心して過ごせるように、ご家族の面会時には、ご本人の様子や想いを伝えたり、ご家族の要望を聞き取り、生活に生かすように努めていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、友人、近所の方などの訪問があり来所時には、気軽に面会していただけるように、声掛けしています。地域の馴染みの場所に外出する機会を設けている。	友人、近所の方、デイサービスで一緒だった方などの来訪があり、お茶やおやつで楽しく過ごされている。新聞のお悔み覧を見てお悔みに出掛ける方もいる。携帯電話をお持ちの方がおり、ホームの電話で家族に電話される方も数名おられる。更に、希望により買い物に出掛け、帰りに自宅に寄られる方もいる。また、本年も利用者と職員合作の手作り年賀状を家族に出す予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じ職員が間に入りながら、利用者様同士が交流し、親しくできるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービス利用への移行まで事業所と連絡調整を行い、本人、ご家族共不安にならないようにお手伝いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの希望や意向を確認、職員間で情報を共有しながら、極力サービスに取り組むようにしている。	全利用者が自分の意思を伝えられる状況であり、一番は利用者の納得するまで話を聞き不満を溜めないようにし、提案することも含め希望をお聞きし意向に沿った支援に繋げるようにしている。気になる言動等があった場合にはケース記録に纏め、引き継ぎの時に状況を伝え共有し支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らしをご本人、ご家族、ケアマネジャーから情報を収集し、入居後も家族等に聞きながら、馴染みの暮らしが継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活習慣を把握したり、表情などからご本人の心理状態を把握し、興味のある事柄等観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議において、職員間で変化など確認しながらカンファレンスを行い、計画を作成している。	職員は1～2名の利用者を担当し、家族への対応や居室内の清掃等を行っている。サービス担当者会議に家族の出席を頂き、希望をお聞きし、カンファレンスでモニタリングを行い、管理者がプランを作成し、基本的に3ヶ月に1回の見直しを行い、変化が見られれば随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化やその時の気づきなど、細かく記録し情報を共有している。引継ぐ前には記録を確認し、変化については話し合いをして、ケアの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方を支える家族構成、関わっている方の年齢などから、車椅子の方の受診の送迎等こちらで支援させていただいたり、その時々ニーズに対応している。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の方に情報をいただいたり、より多くのボランティアに來所いただけるよう働きかけています。また、地域の行事に参加し交流させていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのご本人が信頼を寄せているかかりつけ医に継続して受診しています。かかりつけ医を持たない方は地域の医者と連携を図りながら対応しています。訪問歯科もご利用いただいています。	殆どどの利用者は入居前からのかかりつけ医を利用しており、家族がお連れしている。その際、家族に対して電話で細かく状況を話し、お連れいただくようにしている。数名の利用者は近くの内科医対応で職員がお連れしている。日々の対応は同じ法人のすぐ近くにある特別養護老人ホームの看護師が必要に応じ来訪し、健康管理とともに緊急時の協力医との連携についても対応している。歯科については必要に応じて訪問歯科の来訪で対応し、合わせて口腔ケアの指導も頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近くにある系列施設の看護師に判断に迷った時や緊急時など対応方法を相談したり、助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供し、退院後の情報提供がある時には、同席させていただき、今後についてのご家族の希望を伺い相談させていただいています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に今の状況を説明し、今後についての相談をさせていただいている。事業所で何ができるか、職員間の話し合いや近くにある系列施設と連携しています。	重度化や終末期支援については利用契約時に法人の考え方を話し、取り組んでいる。終末期に到った時には家族、医師、ホーム職員で話し合いを重ね医療行為を必要としない場合はホームとして出来る限りの支援に取り組み、状況に合わせ法人運営の3ヶ所の特別養護老人ホームへの住み替えも含めた支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修にて、導入したAEDの研修を行ったり、急変時の対応を学ぶために、外部研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は日中と夜間帯について行い、職員は役割分担に基づき行動できるように訓練している。訓練の協力を区長、自衛消防団の方にもお願いしています。	年2回、消防署へ届け出の上防災訓練を実施し、うち1回は消防署員参加で行っている。利用者全員参加で、日中や夜間想定火災訓練を行い、火元より遠い出口より避難し玄関先まで移動するという内容で実施している。合わせて消火訓練、通報訓練、緊急連絡網の確認訓練等を行い、2ヶ月に1回、職員単独時を想定した避難訓練を実施し、防災への意識を高めている。備蓄として水が準備され、非常食は近くの特別養護老人ホームとして備えている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の特性を今後も生かし個々を大切にしながら、尊厳を保持した関わりを心がけています。	親しき仲にも礼儀ありと言葉遣いには特に気を付け支援に取り組んでいる。礼節委員会の中で言葉遣いに対する評価結果をオープン化しており、一人でも礼節から外れると全員が同じように見られると言う事を重く捉え、意識の統一を図っている。入室の際には「失礼します」と声掛けを行い、呼び方は基本的に苗字を「さん」付けでお呼びしているが、状況に応じ「名前」でお呼びすることもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択、自己決定の場面を設け思いを聞き出すよう努めている。日常生活の中で思いや気持ちを引き出せるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的な対応ではなく、その方のペースに合わせ個々に食事の時間、場所柔軟に対応しています。外出も希望に添えるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月理容師に来て頂き、ご本人の希望に沿った髪形にしています。外出時などは、本人の希望に合わせた好みの服に着替えていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様とおやつを手作りしたり、希望の献立や行事食、郷土食も取り入れていきます。利用者様と一緒に盛り付けや食器洗いも行っています。	食形態はキザミ、おかゆの方もいるが、全利用者自力で食事の出来る状況である。職員共々笑いのある賑やかな食事の時間を過ごしている。法人の特別養護老人ホームの管理栄養士と連携を取り、利用者の希望も取り入れ献立を作り、主菜はその特別養護老人ホームからのものを使い、副菜についてはホームで調理し、管理栄養士からのアドバイスで「大豆たんぱく質」を多く使うように意識している。利用者のお手伝いは野菜の下準備から後片付まで力量に応じ参加して頂いている。お雛様、お彼岸、お盆、敬老会、正月等には季節感のあるものを用意し楽しい食事を演出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェックや水分チェックをし摂取量が少ない方は補うようにしています。飲み込みづらい方には、トロミを使用したり、嗜好にも沿うようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には声掛けし、口腔ケアを行っていただいています。必要に応じて職員が介助しています。訪問歯科もお願いしています。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体調にもよりますが、全員がトイレにて排泄しています。排泄パターンの把握に勤め、その方に合ったペースで排泄できるように努めています。	自立している方が数名いるが殆どの利用者は一部介助となっている。排尿、排便チェック表を使い利用者個々のパターンを掴み、尿意を言い表せる方については付き添い、その他の方は時間に寄り声掛けを行いトイレにお連れしている。また、スムーズな排便促進のため、水分摂取に合わせオリゴ糖を牛乳に混ぜて摂取して頂いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分摂取も気を付け、乳製品、オリゴ糖などで自然排便を促しています。 主治医からその方に合った整腸剤も処方していただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、本人の体調その日の気分によっても、入浴出来るようにしている。菖蒲湯、ゆず、りんご湯等季節を感じていただく入浴も楽しんで頂いている。	3つの浴槽が設けられた浴室は明るく開放感が漂っている。全利用者が見守りも含め何らかの介助が必要な状況となっている。週2回入浴を行い、夏場は状況によりシャワー浴での対応も行っている。拒否の強い方も数名いるが時間を変え、人を変え、日を変え対応している。また、利用者同士仲の良い方が二人で入浴を楽しまれている。更に、上山田温泉の足湯にも出掛け温泉気分を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様には、自由に好きな時に好みの場所で休んでいただいている。夜間は利用者様が眠くなった時に休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を職員全員が常時見ることが出来る場所に置いている。また誤薬、投薬漏れがないよう2名で服薬チェックを行い服薬ミスを防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や好きな事、したいことを見つけ生活に取り入れている。タバコなどの嗜好品も楽しんで頂けます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天などでない限り、毎朝散歩をしていただいています。体調、気分、天候により、歩行距離を調整させていただいています。馴染みの場所や希望に沿った場所などにも出かけています。	殆どの利用者は自力で歩くことが出来る状況である。日常的にはホームの中を散歩したり天気の良い日には毎日外に出て周りを歩いたり、ホームの畑で野菜の栽培を楽しんだりしている。また、受診時には買い物にも立ち寄り外の空気に触れている。更に、年間の行事計画があり、杏や桜の花見、バラ園見学、中学校の運動会、神社の菊花展、足湯、紅葉ドライブ、初詣等の外出も楽しんでいる。	

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を預かり管理をさせていただいている方はいません。外出時買い物の際には、ご希望に応じ事業で立て替えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話で連絡をとったりご家族の協力を得ながら、希望のある時は自由に通話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けや花などで四季を感じていただいたり、大きな窓から四季折々の景色を楽しまれている。	広々とした敷地内にはあんずの木に囲まれた広場と広い畑があり、素晴らしい環境の中にある。玄関ロビーは陽当たりが良く利用者の寛ぎの場となっている。食堂の他、数ヶ所に設けられた寛ぎスペースにはソファに腰かけ談笑しながらテレビを楽しむ利用者の姿が見られた。ホーム内には季節の飾りつけが施され、季節感を味わいながら自由な生活を送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの方が話をしたり、景色を眺めたり、思い思いの場所で過ごして頂いている。落ち着かない方は落ち着ける場所で過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族の写真などが置いてあったり、馴染みの家具などをお持ちいただき、落ち着く居心地の良い雰囲気づくりを心がけています。	各居室は十分な広さが確保されゆったりとしている。掃除も行き届き清潔感が感じられる。持ち込みは自由で、使い慣れた家具、テレビ、趣味の道具、仏壇等が持ち込まれ、壁には家族の写真、自分の作品等が飾られ、思い思いにレイアウトがされ自由に生活していることが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの状態に応じてベット、ダンスの配置を換え安全を図っている。トイレ、浴室も貼紙をし、利用者様によっては、居室に名前を貼りわかりやすいようにしている。		